

へきけんニュース

ホームページ https://www.hokkyodai.ac.jp/edu_center_remoteplace/

メールアドレス kus-hekiken@j.hokkyodai.ac.jp

☎ 0154-44-3291 FAX 0154-44-3292



背景は北海道教育大学校釧路校

初の分散・学生運営型！

令和4年度北海道教育大学釧路校 へき地校体験実習報告会を開催しました

北海道教育大学へき地教育アドバイザー（釧路校） 荒川 浩一



へき地校体験実習受け入れ校に感謝して

8月末にスタートした令和4年度のへき地校体験実習。11月中旬に、予定されていたすべての学校での実習が終了しました。コロナ感染の心配は実習期間全体を通してありましたが、特に大きな問題もなく実施できたのも、実習の意義をご理解の上、丁寧なご指導をいただいた受け入れ各校及び各市町村教育委員会のご協力によるものです。心から感謝申し上げます。

釧路校では、大きく「実習Ⅰ（2年生対象、1週間）」と「実習Ⅱ・Ⅲ（3、4年生対象、2週間）」のそれぞれが時期をずらして実習を行います。いずれも実習校及び参加者が大きく増えました。その関係もあって、すべての実習が終了した12月に行う報告会を実習Ⅰは3教室、実習Ⅱ・Ⅲを2教室で分散同時開催によって行うとともに、いずれもZoomで各実習校の参加もいただけるようにしました。学生の講義の関係で、退勤時間を過ぎてからの開催となってしまったのですが、多くの実習校の参加をいただくことができました。学生にとって大きな励みになったことは言うまでもありません。本当にありがとうございました。

実習ばかりではなく報告会でも感じられた学生の主体性

この報告会は、実習校の特色ある教育活動や実習の成果・課題を交流するなかで、へき地・小規模校教育の現状理解と実践的な力量を高めることを目的としたものです。成果については共通する部分も多く、あらためて学んできたことを確認できたとともに、他の報告から新しい発見もあり、学びを広げることができたとの声が聞かれました。

今回は初の試みで、進行も学生によって進められ、活発な質疑もあり、多くの実習生が口にした、へき地校ならではの「主体性」の大切さを感じられる、生き生きしたものになりました。



開会にあたっての浅利キャンパス長の期待を込めたご挨拶。緊張していた学生はリラックスできたようでした。

感動の連続！！ 実習Ⅰ 報告会

知識を現場で再確認 12月8日(木)

実習Ⅰ報告会では18校、36名の報告が行われました（昨年度は10校23名）。実習Ⅰは観察実習が中心の1週間という短い期間でしたが、授業や休み時間での子供たちとの触れ合いや、宿舍生活の様子などを生き生きと伝えてくれました。

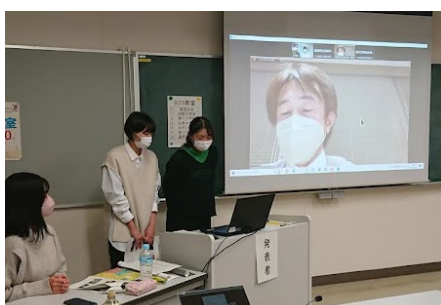
伝えたい内容がたくさんあるにも関わらず、8分という短い時間での発表でしたが、それぞれが苦勞して学び、今後の大学生活のために得られた課題をしっかりと伝えてくれました。



Zoomに入室いただいた方を含め、3教室に延べ75名が参加。質問、感想もたくさん飛び交う活発な報告会になりました。



報告終了後、一人一人に修了証が手渡されました。



Zoomの向こうから、実習校の先生にコメントいただき、目を潤ませる学生も。



へき地校体験実習Ⅰ協力校

町村名	学校名	人数
足寄町	螺湾小学校	2
帯広市	愛国小学校	1
	清川小学校	2
	清川中学校	2
	広野小学校	2
幕別町	糠内小学校	3
鹿追町	通明小学校	3
	笹川小学校	1
	上幌内小学校	2
	瓜幕小学校	2
中札内村	瓜幕中学校	2
	上札内小学校	3
豊頃町	大津小学校	2
厚岸町	太田小学校	2
浜中町	浜中中学校	3
標茶町	沼幌小学校	2
釧路市	阿寒湖義務教育学校後期	1
	音別中学校	1
計	18校	36

教壇実習を含む厳しい経験から生まれた本物の充実感

実習Ⅰは「観察実習」が基本ですが、教壇実習を経験させていただいた学生もいました。1週間という期間、指導案を書いた経験もあまりなく、ましてそれまで授業の経験はほとんどないだけに、「かなり緊張した」、「大変だった」と報告する一方、授業を経験したどの学生も、やり遂げた充実感を感じたという心境を聞かせてくれました。「うまくいかなかった」と反省する一方で、「もっとうまくなりたい」と次への意欲を語る学生がとても頼もしく思えました。また、実習で児童や生徒にパワーポイントを使ってプレゼンテーションを経験した学生は、この報告会でもその学びを生かし、しっかり成果として発揮していました。



3つの教室で司会進行を務めてくれたのは、実習Ⅱ・Ⅲの実習を終えた3、4年生の皆さん。これも実習での経験のおかげなのか、自分たちのコメントもはさみながら臨機応変に会を進行してくれました。

へき地・小規模校で高まった教職への意欲

へき地校体験実習を終えて

- 自信がついた、成長を感じた
- 教師のやりがいを感じた
- 自分の強みと課題を再確認

この経験を
経験で終わらせたくない!

教職意欲の高まり

標茶町立沼幌小学校の報告スライドより

8. 実習の成果

- へき地校の良さを生かした授業
- 自身の課題の発見
- 本物の子どもを前にした授業実践



鹿追町立上幌内小学校の報告スライドより

週に一度のフィールド実習に加えて、1週間1日中、連続して実習を行うことから、授業以外での教師の姿を目の当たりにし、「**学校で働くことの喜びを感じるとともに、勤務の大変さも実感できた**」という声が聞かれました。そのうえで「**教師になりたいという気持ちが強まった**」と力強く語る姿が実習の成功を表していました。

この実習が、あらためて自分と向き合う機会になったことは、自分の課題を知るとともに「良さ」を発見できたと報告する学生が多かったことからわかります。

実習後に今後のことについて語った学生の言葉に次のようなものがありました。「今までは学ぶのは子供たちで、教えるのが教師だという考え方だったが、教師を行う上で『学び続ける』ことが大切だと学んだ。」



真剣に聞き入る学生。実習体験者以外も参加し、活発な質疑応答がありました。

つかめた？ 子供との距離感

実習の事前指導の段階から、「子供との距離感」を課題として挙げる学生が多くいました。連続してまとまった期間、子供達と接することにより、授業での接し方、遊んでいる時の接し方など、助言を得たり、自ら試行錯誤したりしながら自分なりの感覚をつかんだことがうかがえました。

大きく成長した 実習Ⅱ・Ⅲ報告会 より深い学び！ 12月15日(木)

3、4年生が対象となるへき地校体験実習Ⅱ・Ⅲ（以降「実習Ⅱ・Ⅲ」）の参加者は24名（昨年度16名）。昨年度は4年生の参加者は2名のみでしたが、今年度は8名で、実習Ⅰで感じた課題をさらに追究するために参加を希望した学生もいます。

期間も2週間となり、内容も「教壇実習」がメインとなることから、より深く学んだことがうかがわれ、語る言葉にもとても力こもった、聞きごたえのある報告会となりました。

Zoom入室いただいた方を含め、2教室に延べ56名の参加。鹿児島からも5名の先生たちにZoomで参加いただきました。



へき地校体験実習Ⅱ・Ⅲ 協力校／参加学生

町村名	学校名	学年・人数
標茶町	磯分内小学校	3年生1名 4年生1名
	塘路小学校	3年生2名
釧路市	山花小学校	3年生1名 4年生1名
	阿寒湖義務教育学校 前期	3年生2名
	音別小学校	3年生1名 4年生1名
釧路町	昆布森小学校	3年生1名 4年生2名
弟子屈町	美留和小学校	3年生1名 4年生1名
	和琴小学校	3年生2名
別海町	上風連小学校	3年生1名
根室市	海星小学校	3年生2名
鶴居村	幌呂小学校	4年生1名
	下幌呂小学校	3年生1名 4年生1名
白糠町	茶路小学校	3年生1名
計	13校	24名

教壇実習から得た学び

- ・ 具体物を用意し、子どもが実際に操作したり黒板に書いたりすることで、集中力を維持できる
- ・ 少人数でも主体性や対話を忘れない
- ・ 間接指導を充実させることの重要性
- ・ 児童の様子を想像して授業を作る
- ・ 2つの学級の授業を一緒にイメージしていく
→スムーズなわたり・ずらし
→子どもが暇になる時間がなくなる



標茶町立塘路小学校の報告スライドより

実習生活を振り返って

<成長>

- ・ 授業をすることに対する不安からの脱却
→授業中も授業外も実態把握
- ・ 「関わるところ」と「見守るところ」の線引き



<課題>

- ・ 教員同士・児童―教員間の信頼関係の築き方
→教員の放つ雰囲気は子どもに伝染する

弟子屈町立和琴小学校の報告スライドより

6. 実習で得られた成果

複式授業は、教師の力量形成の格好の場であると理解できた



- 1 学年間の系統性を見通すことが出来るようになる
- 2 同じ授業を複数回こなすことで、精度が上がる
- 3 主体的な学習活動をファシリテートする能力の向上

鶴居村立幌呂小学校の報告スライドより

予想以上に難しかった複式授業

実習参加者の多くが参加理由としてあげたのは「複式授業を経験してみたい」ということでした。そして実際経験した学生全員が「間接指導」の難しさについて報告していました。

間接指導を成立させるための直接指導時の明確な指示などについて、机上では学んできたものの、実際に授業をしてみると、「わたり・ずらし」のタイミングは、教材や子供達の実態によって違うこと、そのために子供個々の見取りがより重要であることなど、多くの発見がありました。

小規模校の印象的な特徴として異学年交流を挙げる報告多数。実習生も3、4年の異学年ペアで学びが深められたとの報告もたくさん。



自らの成長を実感できた！ - 単式でも活かせる間接指導 -

主免実習を終えたばかりということもありその比較から多くを学んだという報告もたくさんありました。「間接指導の充実を図っていくと、結果的に主体的な学習をファシリテートする能力が向上することにつながり、そうした力は複式に限らず、単式でも活けると感じた…」等、自分の成長を実感したというコメントがとても多く聞かれたのも印象的でした。「自分の成長…」という不遜な印象を与えそうな気もしますが、こうした学生に共通するのは自らの課題もしっかり把握するとともに、謙虚に学ぶ姿勢を持っているということ、強く感じました。



実習校の先生と Zoom で再会。「いい教師になってほしい」という思いがとても伝わる温かいコメントをいただきました。遅い時間にも関わらず、本当にありがとうございました。

大学での学びをこれからもつなぎ続ける

今回の報告会は教室を分散して行ったために、昨年度に比べて一つ一つの教室のボリュームが小さくなったものの、それぞれの発表に質疑応答を加えたことで、より活発な報告会になりました。発表者も「伝えたい」という気持ちが発表方法にあらわれ、フロア側もそれに答えるように感想や質問を投げかけていました。司会進行の学生たちも、時には的確な感想を交えながら会をすすめてくれました。実習Ⅱ・Ⅲの報告会で進行係の一人が報告会の締めくくりで語った一言を紹介し、「報告会」の「報告」を閉じます。「…私たちは大学で学んできたことを、今回の実習でつなげることができました。これからもお互いしっかり学び続けましょう！」



進行を務めてくれたのは前週に実習Ⅰ報告会で発表したばかりの2年生4名。「先輩たちの報告会なので緊張しました」と言いつつ、見事な進行ぶりでした。